

飼育下におけるゴマフアザラシの死産について

福島 千鶴・稲村 修 (魚津水族館)

はじめに

ゴマフアザラシ *Phoca largha* は、アザラシ科に属する海生哺乳類で、ベーリング海とオホーツク海を中心に、チュクチ海、日本海北部、ピョートル大帝湾、渤海-黄海に分布する (和田・伊藤, 1999)。また、ゴマフアザラシは日本の水族館や動物園で最も多く飼育されているアザラシで、飼育下での繁殖が各地で行われている。

魚津水族館では、1983 (昭和 56) 年 1 月 23 日より本種を飼育しており、過去に 3 回の出産がある。最初の 1 頭がプールに落ちて溺死したため、その後の出産では母獣を出産前に隔離したところ無事に出産・哺育を行い、2 頭が成長している。

この経験から、今回も母獣を隔離して出産を迎えることにしたが、残念ながら死産であり、数日後に母獣も死亡した。出産に伴う母子の死亡は当館で初めての事例であり、一連の経緯を以下に記す。

飼育施設

飼育施設は屋外にあり、ステージ面積は 22.5 m²、プール面積は 17.5 m² の合計 40 m² で、ステージ奥には 5.7 m² の作業用の小屋が設けてある。大きさの異なる 2 つのプールの総水量は 40 t で、各プールにスロープなどは無い。

出産時に用いる隔離部屋が無いため、臨時的にステージ上に柵を設置することで隔離スペースを作った。

飼育個体

- *母獣 ミク：血統登録番号 447 (写真 1)
年令：14 歳
過去に一度死産の経歴



写真 1 母獣：ミク

- *父獣 クウ：血統登録番号 948
年令：7 歳
- *仔獣
性別 メス
全長 87.5cm 体重 7.5kg

経過

2010 年 3 月 29 日 交尾確認

2011 年 2 月 28 日 隔離

(過去に隔離した際の例や他園館からの聞き取りを元に、隔離時期を決定。隔離はステージの奥へ母獣を誘導し、ステージのプール際に仕切り柵を設置。また、FRP樹脂製の隔離時用のプールと木材製のスロープの設置も行った。)

2011 年 3 月 4 日

朝、多量の出血が見られた。エサは、サバの尾を口に入れるが噛まずに吐き出した。その後、外陰部より少量の出血や一部乳白色の血が混じった粘液物などが出続けた。

2011年3月5日

【5時30分】

ステージ全体的に血痕が付着しており、外陰部は新たな出血で濡れていた。呼吸は異常なく、ホースを動かすと普段のように嘔んだり追いかけたりして遊んでいた。

【10時09分】

羊水が入ったままの羊膜が袋状になって、外陰部より一部露出(写真2)。表面には血管が走っており、内部に胎仔の頭や毛などは観察できず、外陰部より指を入れてみても胎仔には届かなかった。



写真2 袋状の羊膜

2011年3月6日

【9時03分】

羊膜が破れる。外陰部より手を入れてみるが、胎児に触れることができなかった。

【10時17分】

オキシトシン注射液ポストネスを右大腿部注射。その後徐々に羊膜が排泄された。

【12時15分】

外陰部より手を入れると仔獣の下顎に触れたため仔獣を取り出し、仔獣の死亡を確認した(写真3)。その後母獣はぐったりとしており、外陰部より若干の出血が見られた。



写真3

2011年3月7日

【7時40分】

ステージに出血の痕が見られ、まだ出血も続いていた。前日よりもぐったりとしていて、目を閉じていることもあった。

【14時30分】

水性アンピシリン注射液K S Kを左大腿部に注射。保定の必要がない程抵抗する様子がなかった。その後も少量の出血が続いていた。

2011年3月8日

【7時15分】

母獣の死亡確認。解剖の結果、死因は子宮蓄膿症で、母獣は子宮を含めそれ以外の内臓も腐敗が進んでいた。

考 察

今回の死産及び母獣の死亡について、母獣の子宮蓄膿症の影響で胎児が死亡したのか、先に胎児が死亡したことで母獣が感染したのかなど、その詳細は不明である。しかし、出産に備えて隔離したことが、母獣や胎児に悪影響を与えたことも考えられる。隔離設備が不十分な当館では、事前に隔離設備への移動トレーニングや隔離場所への馴致を行えない。そのため隔離に動物が慣れておらず母体への精神的・身体的負荷を考えると、出産が近い時期での隔離は行わない方が良いと思われる。

その場合は、出産予定日が近づくと職員は24時間観察を続けるなどして、出産後に母獣と仔獣を一緒に隔離し、仔獣の溺死や他個体からの攻撃による事故死などを防ぐ必要がある。

もしくは、繁殖や疾病時に隔離できるスペースを確保し、普段より隔離のためのトレーニングを行い十分に馴致ができている状態で出産を迎えることが望ましい。

残念ながら死亡した母獣・仔獣のためにも、今回の経験はきちんと情報を整理して残すことで少しでも将来に活かし、魚津水族館でのゴマフアザラシの安定した繁殖が

行えるようにしていきたい。

参考文献

和田一雄・伊藤徹魯. 1999. 鰭脚類アシカ・アザラシの自然史 初版. 東京大学出版会. 35

謝 辞

平素からゴマフアザラシの治療及び健康管理指導をいただき、今回も多大なる尽力をいただいた魚津市農林水産課家畜診療所の谷口一人獣医師を始め、アドバイスを下さった園館の方々に、謝意を表します。